

水漏れ連絡チェックリスト

水漏れで最も重要なのは、「どこで」「漏れ続けているか／一時的か」を整理して伝えることです。場所が最初に分かると、受け手は原因系統を素早く判断できます。

1. まず最初に伝える結論4点（ここが最重要）

- ・場所：例）キッチンシンク下の収納庫内、洗面台下、トイレ床、天井など
- ・漏れ方：一時的か／漏れ続けているか
- ・きっかけ：使った時だけか／使っていないでも増えるか
- ・止水で変化：止水栓・元栓で止まるか／変わらないか

2. 連絡前に確認するチェック（最優先）

- ① いまも漏れ続けている？
- 漏れ続けている（ポタポタ／じわじわ／流れる） 一時的だった 分からない
- ② 何か使った後だけ濡れる？
- トイレ 蛇口（キッチン／洗面） お風呂 洗濯 使っていないでも増える
- ③ 止水で変化がある？
- 止水栓：止まった／減った／変わらない 元栓：止まった／減った／変わらない
- 止水できない（場所不明・固着・MBが開かない）
- ④ 階下漏水・上階起因の可能性
- 天井にシミ・水が落ちる 壁の上から伝ってくる 下の階からこちらが来た

3. 連絡用チェックリスト（記入欄）

場所（最重要）： _____

住所（建物名・号室）： _____

氏名・連絡先： _____

建物種別：戸建／分譲マンション／賃貸

漏れ方：漏れ続けている／一時的／使った時だけ

止水状況：止まった／減った／変わらない／できない

被害範囲：床・収納内・壁・天井・階下影響の可能性

4. 伝え方の例

- 「キッチンシンク下の収納庫内で、使っていないのにじわじわ増えています。元栓を閉めたら減りました。」
- 「トイレを流した後だけ、便器横の床が濡れます。普段は乾いています。」
- 「自室では水を使っていないのに、天井から水が落ちています。」

5. 注意

電気設備付近が濡れている場合は無理に確認せず、安全を最優先してください。分からない場合は、そのまま『分からない』と伝えて問題ありません。